

モハメッド・サレヒーン
WFP 国連世界食糧計画
日本事務所代表



2008年10月1日付でWFP日本事務所代表に就任。国連職員として30年以上のキャリアを持つ。

イラク、スーダン、インドネシア、スリランカにてWFP事務所長や代表を歴任。その間、湾岸戦争直後のイラク、インド洋津波で大きな被害を受けたインドネシア、紛争の続くスーダンやスリランカといった現場で、複雑な緊急支援活動を指揮。

また、国連人道問題調整事務所（UNOCHA）副人道支援調整官として、アフガニスタンや周辺諸国における支援活動を調整。世界で最も大規模な地雷除去活動にも携わる。

途上国現場での勤務に加え、WFPローマ本部でも勤務。東欧及び独立国家共同体（CIS）課主任として、独立国家共同体（CIS）12カ国への食糧支援活動をローマ本部より監督したほか、人事部次長も歴任。

それ以前には、バングラデシュ、ガーナ、エチオピアのWFP事務所にも勤務。

バングラデシュ国籍。物理学及び政治学学士。組織開発計画学及び英語学修士。日本、インドネシア、フランスの大学で講演多数。